

#### C-4 宮崎県の骨髄腫に対するベルケイド治療

○松岡 均<sup>1,7</sup>、河野 浩<sup>1,7</sup>、前田宏一<sup>2,7</sup>、石崎淳三<sup>3,7</sup>、山下 清<sup>4,7</sup>、河野徳明<sup>4,7</sup>、  
吉田周郎<sup>4,7</sup>、佐々木規<sup>5,7</sup>、外山孝典<sup>5,7</sup>、久富木庸子<sup>6,7</sup>、下田和也<sup>6,7</sup>  
古賀総合病院<sup>1</sup>、国立病院機構都城病院<sup>2</sup>、県立日南病院<sup>3</sup>、県立宮崎病院<sup>4</sup>、県立延岡病院<sup>5</sup>、  
国立宮崎大学内科学消化器血液学分野<sup>6</sup>、宮崎ヘマトロジーグループ<sup>7</sup>

【目的】宮崎県内の血液疾患患者診療をほぼ網羅する宮崎ヘマトロジーグループで県下の骨髄腫患者に対するベルケイド治療の現状について検討し、今後の治療方針の参考にする。

【方法】調査用紙を送付し、患者背景、治療方法、治療効果、副作用などを検討した。【結果】県内で3月末までにベルケイド投与された48例のうち調査票を回収できたのは34例だった。年齢は50-83(平均66.3)才、性別は男女50%:50%。PSはPS0から4まで、各々32%、29%、21%、9%、9%。IgA IgG IgD BJ-Pが各々48%、28%、7%、17%。D&S分類 I~IIIまで各々6%、12%、82%、ISS分類ではIからIIIまで各々30%、29%、41%。前治療はMP25名、VAD16名、autoPBSCT5名、サリドマイド15名、デカドロン7名、CP7名、その他20名(重複有り)。前治療回数は2回から26回まで施行されていた。ベルケイド投与量は $1.3\text{mg}/\text{m}^2$ が79%と多数を占めた。治療効果はbest responseではVGRP23.5%、PR41.2%、奏功率64.7%、PDは2.9%。ITTでは2、4、8サイクル終了後で55.9%、48.1%、42.9%。治療途中での中止が35%にみられ、55%は副作用によるものであった。

【結論】ベルケイド治療は骨髄腫に有効な治療法である。しかし、 $1.3\text{mg}/\text{m}^2$ を週二回ずつ継続する方法は副作用による中止例が増加し、ITTが改善しなかった。今後、帯状疱疹に対する予防策も含め、投与量、投与間隔の検討が必要であると考えられた。